

第 4 回鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画
策定委員会（会議録）

○日 時：令和 6 年 7 月 17 日（水）13 時 30 分～15 時 10 分

○場 所：鶴岡市役所 別棟 2 号館 21～23 会議室

○出席委員：上野 雅史 委員、阿部 真一 委員、阿部 俊夫 委員、尾川 勝則 委員
鈴木 俊将 委員、佐藤 菜々子 委員、岡部 浩美 委員、本間 豊 委員、
山本 斉 委員代理（五十嵐 久廣委員代理）、鈴木 小枝 委員

○欠席委員：國井 英夫 委員、ミヨ サラ ラッシュェル 委員、三浦 明弓 委員

○オブザーバー：
経済産業省東北経済産業局産業部商業・流通サービス産業課長 成田 早霧 氏
(オンライン参加)
国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長 清水 明彦 氏
(代理出席) 建設専門官 勝長 周悟 氏
独立行政法人中小企業基盤整備機構高度化事業部まちづくり推進室長 林 伸次 氏
(代理出席) 専門職員 安達 富夫 氏
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部長 鈴木 孝弘 氏

○アドバイザー：早稲田大学 教授 矢口 哲也 氏

○事務局：企画部長、商工観光部長、建設部長、教育部長、企画部政策企画課長、企画部
地域振興課長、商工観光部次長兼商工課長、商工観光部商工課商工企画主幹、
商工観光部観光物産課長、建設部都市計画課長、教育委員会管理課主幹、教育
委員会社会教育課長、教育委員会図書館図書館長、鶴岡商工会議所経営支援課
長、鶴岡商工会議所総務企画課企画係長、鶴岡商工会議所経営支援課経営指導
員主任、商工観光部商工課課長補佐、商工観光部商工課商工専門員、商工観光
部商工課商工専門員（企業振興班）、商工観光部商工課行政研修、建設部都市
計画課管理主査、建設部都市計画課都市計画係長、建設部都市計画課都市計画
専門員、建設部都市計画課主事（都市計画係）

○公開非公開：公開

○傍聴者：0 名

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
(1) 中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員の変更について
4. 協 議
(1) 第 3 期中心市街地活性化基本計画（案）について
(2) その他
5. その他
(1) 今後のスケジュールについて

6. 閉 会

<会議概要>

1. 開 会

2. あいさつ

《委員長》

- ・暑い中また足もとの悪いところ、第4回策定委員会にご出席いただき感謝申し上げます。
昨年度は委員の皆様から多くの意見を頂戴し、概ね15年先の将来の姿、グランドデザインである「鶴岡市中心市街地将来ビジョン」について議論いただいた。本ビジョンは、キャッチフレーズを「できる うみだす あなたのまちなか」とし、市民、事業者、行政がありたいまちの将来の姿について共通認識をもって都市計画の課題解決に連携して取り組んでいくことを目的としている。本ビジョンには、賑わい、居場所、観光、居住、移動の5つのテーマがあり、このテーマごとにありたいまちの将来の姿とその実現に向けたまちづくりの方針を定めている。
- ・今年度、本ビジョンに基づき、令和7年度から令和11年度までの5カ年で取り組む第3期の鶴岡市中心市街地活性化基本計画を策定することとなった。本日は、基本計画に盛り込むビジョンに掲げた5つのテーマのまちづくりの方針の達成状況を把握するための目標指標及び目標値、目標を達成するための実施内容についてご協議いただく。
- ・策定委員会は本日を含め2回の開催としている。10月に今年度2回目の策定委員会を開催したのち、パブリックコメントを実施し、11月下旬には内閣府に計画最終案を提出する予定となっており、非常にタイトなスケジュールの中、皆様にご協議いただくこととなる。限られた時間ではあるが、委員の皆様より忌憚のないご意見を頂戴したい。

- ・配布資料の確認

3. 報 告

(1) 中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員の変更について

《委員長》

- ・中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員の変更について事務局より説明いただく。

《事務局》

- ・特定非営利活動法人つるおかランド・バンクの理事長交代に伴い、阿部俊夫氏が委員になることと、鶴岡TMO運営会議の國井英夫氏も理事長退任に伴い、次期理事長が委員になる旨を説明。
- ・質問があればいただきたい。(質問なし)

4. 協 議

議長：委員長

《委員長》

- ・第3期中心市街地活性化基本計画（案）について事務局より説明いただく。

《事務局》

… 資料についての説明 …

《委員長》

- ・昨年度1年をかけて年代を問わず、様々な意見を取り入れながら鶴岡市中心市街地将来ビジョンを策定した。これを具体的な基本計画に落とし込む流れとなっている。今回5つのテーマに沿って目標値やその施策等について案を作っていたが、こちらについて忌憚のないご意見をいただきたい。
- ・前期の第2期基本計画では残念ながらすべての項目が未達成という結果だった。その中でも賑わいの創出というのはなかなか難しかったというようなご意見もあったがいかにか。

《委員①》

- ・つるおかランド・バンクは空き家空き地対策のための団体であり、そのような立場で一般の委員会に参加した。中心市街地活性化基本計画は事業数が多いが、第2期では高層マンションなどの建設を計画したが実施できず、居住誘導区域で空洞化現象が起きており人口減少率、高齢化率が高い。この問題に対しランド・バンクでも色々と相談対応などもしているが、やはり空き家等の件数は増えている。
- ・空き家が増えていることについて、この5年間のうち行政的な施策も含め、対策がほとんどなかった。その結果、中心市街地の店舗が次々と閉店してしまっている。千葉寿司、主婦の店の銀座店も閉店した。中心部で魚を買おうとしたら魚屋もない。八百屋は点在しているが、肉は長南牛肉屋しかない。以前は、歩いていけるまちづくりという目標があったが、この5年間は反省点が非常に多いと考えている。その分を取り戻す分だけのエネルギーをもった第3期基本計画としてほしい。
- ・人口が減っており、空き家、空き地も増えている。土地が空いてきているところには手を入れやすいのではないかと。住む人、働く人の両者が生きていかないと中心部の再興というものは成り立たないのではないかと。ぜひ、スローガンのようなものでなく、具体的な施策、事業を策定いただき、その目標値についても数字が落ちないように、上を目指せるような形にしていきたい。

《委員長》

- ・居住についてのご意見であったが、事務局から説明等あるか。

《事務局》

- ・空き家、空き地対策の施策についてのご提言ということだったが、一定の人口密度を維持して都市機能を持たせることは重要である。第2期計画では中高層の住居空間を予定していたが、諸事情により実施できなかった。資料4-1にランド・バンクと連携した空き家、空き地の活用について記載している。これまでも事業を実施してきたが、見直しを行い事業のスキームづくりを行いたく、民間事業者とも連携しながら具体的な事業についても展開できるように考えている。

《委員長》

- ・この計画内では記載がないが事業を実施していくということか。空き家、空き地問題は市内全域でも課題となっているが、今回設定している目標値については中心市街地150haの中でも目標値になるのか。

《事務局》

- ・目標値についてはお見込みのとおり、中心市街地内での数値になる。

《委員②》

- ・2点質問したいことがある。目標指標1の「賑わい」の部分「魅力あふれる」の魅力について、具体的にお聞きしたい。また、目標指標3の観光入れ込み客数のカウント方法

についてお聞きしたい。

《事務局》

- ・魅力の部分については非常に色々な側面がある。ひとつはまちなかで楽しんでもいただくこと。訪れたいと思っていただける魅力。事業者にとっても来客が期待できる魅力。居住については、子育て環境の魅力であったり、食料調達が簡単といたり利便性のある、暮らしやすいという魅力、これら全体的な内容を魅力という単語としてまとめた。
- ・カウント方法については、主要観光施設8箇所としている。文化施設6か所、観光案内所2箇所としており、資料2の7ページ目に記載がある。

《委員②》

- ・様々な視点での魅力は大事だと考える。私は子育て世代であり、小学生の娘、保育園児の息子がいる。郊外に住んでいるが、ここ最近鶴岡 Dada に行く機会が増えた。娘がダンス教室に通っており、会場が鶴岡 Dada になっている。毎週火曜日に鶴岡 Dada に行くようになった。習い事をしたい層は必ずいて、それも魅力のひとつになるのではないかと。鶴岡 Dada はホールもあり、集まりやすい。ぜひ、出店だけでなく、カルチャー、趣味、子どもの習い事も考慮していただくといいのかもしれない。
- ・観光入込み客数について、鶴岡青年会議所では、毎年8月に赤川花火大会を開催しており、約5万人の観客が鶴岡に来てくださっている。その中で鶴岡を周遊するのが何人いらっしゃるかと懸念している。花火大会の翌日を鶴岡に滞在して楽しんでもいただける機会として活かしてほしい。宿泊施設に観光パンフレットを置くだけでなく、例えばプレミアム付き商品券を販売・配布するなど、来街される観光客にメリットになるようなことが、この主要観光施設にあるといいのかもしれない。ほかに来客が期待できるイベントとしては天神祭などもある。
- ・3つ目の意見としては、先ほど土地が余っていて、施策にも活かせないかという話もあった。酒田市では商業高校跡地に施設整備することとなっている。その施設では無印良品も入るといった話も聞いており、子育て世帯にはとても魅力的に思える。個人のお店での新規出店は難しいと思うが、市としてランドマークになるような、子育て世帯が魅力を感じるような施設を作るのはいかがか。もしかしたらチェーン店がその魅力となることも考えられる。市としての意気込みをこの計画内で示していただくとよいのではないかと。

《委員長》

- ・この計画で中心市街地が活性化されるのか、どのように思われるか。他にもご意見をお聞きしたい。

《委員③》

- ・資料2の2ページに現状値までではなく、将来的にどの程度人口が減っていくのか予測を示したほうがいいのではないかと。中心商店街に空き地が増えているのであれば、例えば居住スペースを作る、銀座通りを車が通れないようにして公園にしてしまうといったような、抜本的に何か大きい事業を行ったほうが、インパクトがあるのではないかと。

《委員長》

- ・計画だけでは人口減少を止めることは難しい。むしろ、人口減少に対応していくことが必要と考える。今回の計画の作り方を見ると、希望値が入っている箇所もあるように見受けられる。現実を直視して、それに対して何ができるのかをきちんと示すべきだと私としても思う。他にご意見はあるか。

《委員④》

- ・観光面での報告になるが、致道博物館は6月までは前年同月とほぼ同様に推移していた。県内全体でキャンペーンをやっておりその結果だと考える。博物館でも特別展を実施しており、その効果もあると推察しているが、その後減少に転じている。
- ・インバウンド関係について、酒田市は協力的に思える。クルーズ船が寄港した際、酒田市は全市で対応していた。鶴岡市でもクルーズ船からの観光客が、致道館に3回ほどバス1台、通訳付きで訪問していた。以前よりも外国人観光客が増えてきたように感じる。特に東南アジア系、欧米系。インバウンド対応に可能な限り取り組みたいと考えているが、言語対応が課題。その施設が、何の施設、建物なのか理解されるようにしていくべきだが、全体的にインバウンド対応が進んでいない。インバウンド対応の補助があるのもっといいと感じているところ。
- ・来年になると、鶴岡の観光施設が必ず水曜日が定休日になる。館長の方針もあり、致道博物館も定休日を水曜日とすることが決まった。アートフォーラム以外は、ほぼ水曜日を定休日とされているようで、市内の観光施設は水曜日が全て休みになってしまう懸念がある。

《事務局》

- ・インバウンドのご意見についてだが、令和4年度に市内に宿泊した外国人は2,700名、5年度は9,800人。個人の旅行者は欧米人が多く、団体は台湾からのお客様が多かった。
- ・団体はバスで観光地を巡るので、案内をすること自体が難しいが、個人旅行者には様々な対応に取り組んでいるところ。令和6年度は、外国語表記についての補助などを立ち上げ、8月には補助制度を周知する計画としている。
- ・クルーズ船のご質問について、これまで運行・旅行会社と連携し、鶴岡でのツアーをいくつか提案しており、採用されたものにお客様を送り出している仕組みはできている。今年10月にも規模の大きいクルーズ船の寄港もあり、市も魅力あるポイントへのツアーも提案しており、市街地を歩いていただくプランも提案しているところ。この内容については具体的になり次第、受入れ体制も今後相談しながら対応してまいりたい。

《委員長》

- ・他にご意見はあるか。

《委員⑤》

- ・7月1日付けの日経MJで、訪日客消費額については山形県が1位という記事があった。エリアとしては内陸が最も高かったが、庄内でも伸びており、可能性を感じている。東京から西の方へ行くいわゆるゴールデンルートではオーバーツーリズム問題が大きくなっており、今がこちらに呼び込むチャンスと考えており、スピード感をもって対応していくべきと考えている。先ほど本間委員からも発言あったが、多言語対応の表示等のハード整備も必要であるが、受け入れる人側の心の準備、自信を持って受け入れられるようなソフト面の整備を同時に強化する必要がある。オーバーツーリズムで溢れた訪日客を地方が取り込むよう様々な団体、自治体等が施策を打ち出しているところで、乗り遅れることなく、一歩先を行く取組みを期待したい。
- ・クルーズ船のお客様については、致道博物館の滞在時間は短いという声が毎回ある。実際、鶴岡に来たお客様からのアンケート等でフィードバックがあるようであれば、滞在時間を延ばすような手立てや反省点を考えるべきである。

《事務局》

- ・貴重なご意見に感謝申し上げます。インバウンドの伸び率が山形県1位ということであっ

た。確かクレジット会社の利用状況を調査し、その結果伸び率が1位ということで、多くの事業者でクレジット、キャッシュレス決済システムを導入されたものとする。未対応の事業者、施設等もまだあるため、導入により利用増が見込めることから、周知していきたい。

- ・外国人に普段接することがない人も、Wi-Fi、翻訳ツールなども活用しながら接客できるように対応してまいりたい。庄内一円でのガイド育成事業も計画しており、外国人とも触れ合う機会を増やしていきたいと考えているので、ぜひ協力しながら事業を進めていきたい。

《委員⑤》

- ・観光業に関わる方だけでなく、一般市民についてもインバウンド対応について考えていただきたい。「こんなところに外国人がくるのか」、「何をしにきたのか」などと言う方もいる。外国人も地元の方も一緒にいるのだと、そういった周知も広く市民にしていくべきではないか。

《事務局》

- ・秋のクルーズ船については国際科目、言語クラブに所属している高校生にも呼び掛けている。学校と連携して観光ガイドにチャレンジする機会なども創出して、受入れ態勢やソフト面での整備も対応していきたい。こうした取組みを進めるうえで岡部委員のような専門的な活動をされている皆様からのご指導いただき受入れ体制や、迎えるための温かい雰囲気づくりに努めてまいりたい。

《委員長》

- ・人口減少については止めようがないものである。いかに交流人口を伸ばしていくかが重要でインバウンド・観光客はポテンシャルがある。市内を循環してもらえるまちをつくるために、多くの方に来街し買い物をしていただき、観光してもらえるまちづくりができるような体制や施策について、色々と記載はあるものの、もう一歩踏み込めていないように思える。そこについてもう少し見直しをお願いしたいと考える。

《委員⑥》

- ・鶴岡開発公社では、アートフォーラム、荘銀タクト鶴岡、それから郊外地であるが加茂水族館といったわくわくどきどき感の伴う施設の管理を行っている。まちなかに人が住む要素としては、買物ができる、便利であるといった要素があるが、将来ビジョンのキャッチフレーズの「できる うみだす」について考えてみてほしい。
- ・先ほど委員の娘さんがダンス教室に通われており、カルチャー関係もまちの魅力のひとつになるということだった。空き店舗を活用して、リフォームで何かお店を作るということは確かに必要だが、他方、例えば都市型スポーツ、スリーオンスリーやスケートボードが遊べるなど、広場にすること案ではあるので、建てるというよりはマイナーチェンジをし、今ある広場等から活用策を生み出す施策も必要なのではないかと考える。

《委員長》

- ・わくわくどきどきという観点からの具体的な施策をもっと考えていただければと思う。

《委員⑦》

- ・まちなかに住むという話に戻るが、住むとしたら便利なところがまちなか、例えばショッピングにしても、車がなくても住める。そういったところでまちなか居住をお勧めし

たいところであるが、まちなかは道路が狭い。子育て世代の、特に若い女性だと運転が苦手な狭い道路、土地がダメとってしまう。セットバックのルールはあるが、塀があり下がれない場所もある。塀を下げていただくだけで大分変わるのではないかな。

- ・先日東京に行ってきたが、外国人とすれ違うことが多かった。美術館では、外国語が多く聞こえてきた。鶴岡もこれに対応する必要があると考える。
- ・女性建築士の大会が来年山形内陸で開催されることになり、知人から鶴岡にぜひ来たいと言われることがあるが、山形から鶴岡まで移動に2時間かかってしまう。そのため、もう1泊してもらって鶴岡に滞在していただけるような、観光のルート・見本を作ってもらおうと説明しやすいし、前泊でも来ていただけると考える。

《委員長》

- ・中心市街地の土地の話についてだが、市で対策など練っておられるのか。

《事務局》

- ・狭い道路については、除雪の観点からでも新築住宅を建てるのを敬遠される。道路の整形なども第2期で計画をしており、ランド・バンク事業でも道路拡張も行っていたが、その前の道がそもそも狭いといったこともあり、うまくいかないところもあった。

《委員長》

- ・郊外のほうがどうしても開発しやすい。空き家は増えており、中心地を開発しやすくするということが行政の役割ではないか。そういった内容について計画に記載するとよいのではないかな。他にご意見等あればお話しいただきたい。

《委員⑧》

- ・商店街も非常に厳しい状況にある。今ある商店は商店街に属さなくてもやっていけるお店が商店街全体の中心になり、その商店街を維持している状況にある。資料2の①賑わいの目標指標1の新規出店・立地数、年間目標11店舗で55店舗の新規店舗出店を図ることだが、これをどのように実現するのか、進め方など伺いたい。

《事務局》

- ・資料3と資料4-2を併せてご覧いただきたい。店舗賃借料、改装費、広告宣伝費をチャレンジショップ事業では支援している。空き店舗解消リフォーム補助金についても改装費を支援。新規創業促進助成金でも新規創業される方に対し、支援しているもの。これらの補助事業を活用し、中心市街地に開業されている方を積み上げている。また、補助金を活用していない方も一定数おり、鶴岡商工会議所と共同で実施している空き店舗調査から施策外で4店舗は開業する方を確認しているため、推計値を10店舗とさせていただいた。これにプラスして今回の中心市街地活性化基本計画の中でエリアマネジメント事業を中心とした魅力を高めるまちづくりのために11店舗は毎年開業させていきたいという数字となっている。
- ・既存の店舗にも様々な活動をしていただきつつ、相乗効果が見込まれるよう既存の施策等も活用いただきながら、また、先ほどお話のあったように1歩踏み込んだ新しい施策も検討してまいりたい。

《委員⑨》

- ・賑わいについてご意見を申し上げたい。私の住まいは酒田市で、清水屋近辺はシャッター街となっているが、山居倉庫付近ではバルやフェスなどのイベントを実施している。大きいイベントではないが小さいイベントを複数やっており、そこに人が集まっている状況。

- ・酒田も駐車場に余裕があるといった状況ではないが、やはり何かしらのイベントや催しがあると人は集まってくる。
- ・ANA blue ambassador で管理している庄内ぐらしという SNS アカウントでアンケートを取った際に、子どもの遊び場が少ないという意見が多かった。こういった意見はあるものの、行動している範囲から外へ出ないために、遊び場が少ないと思われるのではないかと考えている。
- ・小さいイベントでも頻繁に実施していただくことで、イベントに行くハードルが下がるのではないかと。酒田のイベントは、市民のカラオケ大会や、学生のダンスの発表大会をしており、子どもも興味を持つ機会となっている。大きいイベント以外でも町に出かけるようなきっかけをつくってあげるのもよいのではないかとと思う。
- ・イベントに関連して、先日友人が鶴岡に来たが、お米やお酒が色々あると聞いていたが、お店が分からなかったとのことだった。米どころであるのにどこでお米を食べたらいいかわからない、おいしい日本酒を飲める場所が分からないということもあり、日本酒などを味わうイベントがあれば、市民も観光客も楽しむことができよいと考える。

《委員長》

- ・一通り委員各位より意見を頂戴したが、オブザーバーからもご意見をいただきたい。

《オブザーバー①》

- ・目標指標の中で、新規出店数を掲げており、先ほど委員からも魅力についてのご質問があったが、魅力を高める企業、それから店舗の誘致については、まちなかの魅力そのものが大事なのではないかと考えている。その点で、第3期計画の中では、官民共創のまちづくり事業という内容を記載しており、先般7月初めに経済産業省と中小機構が行う商店街活性化支援事業のパッケージ型事業に鶴岡市内商店街が採択されている。こうした専門家派遣事業を活用いただき、エリアマネジメント組織の立ち上げであったり、既存組織それからエリアの強化、事業再構築の検討であったり、中心市街地の賑わい、活性化に取り組んでいただければと思う。当局も中小機構と連携をし、支援を行っていくので引き続きよろしく願いしたい。

《オブザーバー②》

- ・第3期基本計画の中で新図書館の整備事業が新規事業として記載されている。立地適正化計画に基づく都市構造再編集支援事業等を活用されたいのかと考えた。実は新図書館の整備事業については東北でも人気となっている事業であり、直近だと来年、宮城県の某市で翌年には完成させたいということで、非常に熱心に予算確保、業者確保等頑張っている。図書館だけでなく、病院等の建築についてもあちこちで話が出ており、人も資材も集まらず、計画も2年遅れになるなど遅延している状況。人材、資材不足に伴い金額も上昇しており、大手ゼネコンのヒアリングによると、建設業界は万博に注力しており、万博が終わらないと対応できない事業者が多いとのことであった。仮に、早い時期に整備されたいと計画しても、建設会社から断られることも念頭に入れたうえで、今後計画を立てていただきたい。
- ・鶴岡市に初めて訪れた。出身は秋田県。鶴岡に何があるか考えたが、米と酒だと思う。とある1件の酒屋を訪問した際に、若い大学生くらいの方が二人いた。酒好きの方が鶴岡に来た際には、人を引き込むパワーは日本酒と考える。ラーメンなどを含む食文化は観光・交流人口についての非常に重要なファクターであるので、ぜひ活用いただきたい。
- ・大きな箱モノが完成した際にはその施設の来館者が増えるが、商店街への来街者が増えるわけではない。施設から商店街への誘導施策が機能していない事例はあり、ハードとソフトが色々重なって、初めてまちづくりとなる。居住区域、住所を決めるタイミングについて、パワーのある時期は結婚、子育てする時期と考える。市全体でうまくマッピ

ングして、中心市街地で暮らす際のメリットを感じていただく案内が必要かと思料する。

《委員長》

- ・新図書館については中心市街地活性化計画の目玉になると考えていたが、事務局からは議論が進んでいないということだった。資料4-2で新図書館についての内容を入れ込んでいたが、この時点ですぐにやるという話になると、勝長さんのおっしゃる通り計画が遅れる可能性もある。意見聴取を行いながら、議論を重ね、タイミングを見計らって対応してまいりたい。

《オブザーバー③》

- ・賑わい、居住のところについて今回策定委員会で着目していただけてよかった。事業者を増やすという観点では、他都市でも強い事業者を育てている。出店した後のフォローも強い事業者になるには必要であり、そういったフォローもしていただければと思う。
- ・また資料2の4ページ目、中心市街地を賑わいの評価について、賑わっていると考えている方も少数ではあるがいらっしゃる。ここを深掘りされると、なにか面白い内容がでてくるのではないかなと思う。グループインタビューのような形で聞きなおしてみるのもよいのではないかな。
- ・目標達成の施策について、目標指数などとずれていないかチェックは必ずしていただきたい。

《オブザーバー④》

- ・「この内容で賑わうと思うか」と、委員長から投げかけられていたのが印象に残っている。将来ビジョンを踏まえて、第3期基本計画の目標指数を定めているが、3期目となると前期のレビューもあるため、第2期では未達成の項目が多く、心配される方もいるかなと考える。中心市街地活性化は大変な事業、手を変え、品を変え継続する必要がある。そのため、前期の反省と第3期に繋げるための繋ぎの説明を踏まえて、第3期の目標を考えたなど、第2期でうまくいかなかった事業、内容の対応策・反省点も盛り込むとよいのではないかな。
- ・鶴岡よりも少々規模の小さい自治体になるが、中心市街地で年間10件くらい空き家活用のお店が生まれている自治体の例を紹介する。この自治体では、市役所有志が民間とマッチング事業をやっており、フォローがきめ細かい。商店街顔役の紹介や、リフォーム事業者の紹介をしており、地元の民間と連携して補助制度以外のフォローもやっている。お金さえ儲かればよいという方ではなく、まちに思いのある方をうまく活用して親身に対応していただくなどすると、結果的にフィルターが働いて魅力のある店舗が増えることも期待できるのではないかな。例えば、エリアマネジメント活動の中にこういった事業も入れ込むのもよいかなと考える。

《アドバイザー》

- ・3点お話ししたいことがあり、1つ目は目標の事業の連関。中小機構安達氏からもお話があったが、各事業については互いに関連していると思う。例えば、移動は賑わい・観光にも関係している。それぞれの目標が独立しているわけではないため、ここに掲載されている事業が、その後どのようにうまく組み合わせっていくのかを想像しながらお話を聞いていた。なお、今回の資料は非常にまとまっており、KPIもしっかりしたものとなっている。
- ・2つ目は空間的な繋がり。市街地の活性化の話をしているが、観光の話をする周辺地域の連関をどのようにしていくのか。郊外に住んでいる人たちがやっぱり中心市街地に来てみたいというお話もあったかなと思う。空間的な繋がりを計画の中にどのように

反映していくのか考えなければいけない。

- ・3つ目が時間的な射程。私の独り言程度に考えていただきたいが、どうしても KPI を設定すると数年後にも測定可能な KPI を設定することとなる。しかし、それだと射程が短くなってしまう可能性がある。居住を進めたいというとき、居住ニーズは年を経ると変わっていく。季節ごとに住み方が変わる人もいれば、インバウンドでいらっしゃる観光客もいる。長期のことも考えつつ、基本計画を考えていただくといいのではないかな。KPI については妥当だとは思う。

《委員長》

- ・今回策定委員会の意見を反映した形で次回が最終回として対応したい。非常に高い理想を抱えたビジョンを具体的な内容や KPI に落とし込んでいく際に、理想と KPI がかけ離れているのでは疑問に思うところもあり、この内容で中心市街地が活性化されるのかという問いかけをさせていただいた。もう少し肉付けをしていただき、いかに共通認識として市民に広くとらえられるかなど考えていただきたい。5年間の計画であるから、ある意味、様々に状況は変わっていく。図書館にしても今後状況が大きく変わっていくと考えられる。
- ・現状、中心市街地が非常に寂れている。昔はそこが便利で住みやすかったからこそ、人がそこに集まりそこに住んでいた。それが郊外にいつってしまった。しかし、将来的にいつかの段階で中心地に戻ってくるのではないかなとも思う。人口が減ってきており、徐々にまちなかの一方通行等も減ってきている。中心市街地はいつかは住みやすい場所になるのではないかなとも思う。その時間軸がいつになるかは判然としないが、この中心市街地が我々のまちなかの中心ということで考えていきたいので、皆様今後ともご意見などよろしくをお願いしたい。

(2) その他

- ・特になし

《委員長》

- ・以上をもって、本日の協議を終了させていただく。

進行：事務局へ

5. その他

- (1) 今後のスケジュールについて
《事務局》…資料により説明…

6. 閉 会

以 上